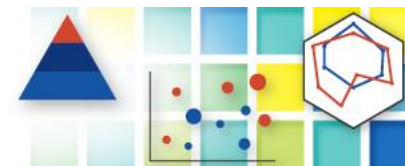




# SSDSE を使ってみよう



## — EXCEL を使った SSDSE データの使用例 —

### 第2回 生鮮肉の支出金額（その2）【解説編】

◎ SSDSE-家計消費から、都道府県庁所在市別の生鮮肉（牛肉、豚肉、鶏肉）の支出金額を抜き出して使用します。

**使用データ** SSDSE-家計消費 2024年版（SSDSE-C-2024）

**分析の内容** 標準偏差、地図の作成、散布図、相関係数

<b>【目次】</b>	2	平均値・標準偏差をグラフに表示する ▶ EXCELでの作図方法	-----	<b>2</b>
	3	データを地図に表示する ▶ jSTAT MAPでの作図方法	-----	<b>5</b>
	4	各品目の間の相関をみる ▶ EXCELでの作図方法	-----	<b>10</b>
	5	東日本と西日本に分けて分析する ▶ EXCELでの作図方法	-----	<b>12</b>

※ この資料では、EXCEL2016 を使用しています。

## 2 平均値・標準偏差をグラフに表示する ▶ EXCELでの作図方法

◎ **図1**のグラフは、**支出金額をプロットした《第1回》の図1**の上に、**平均値と標準偏差**を追加で表示したグラフです。

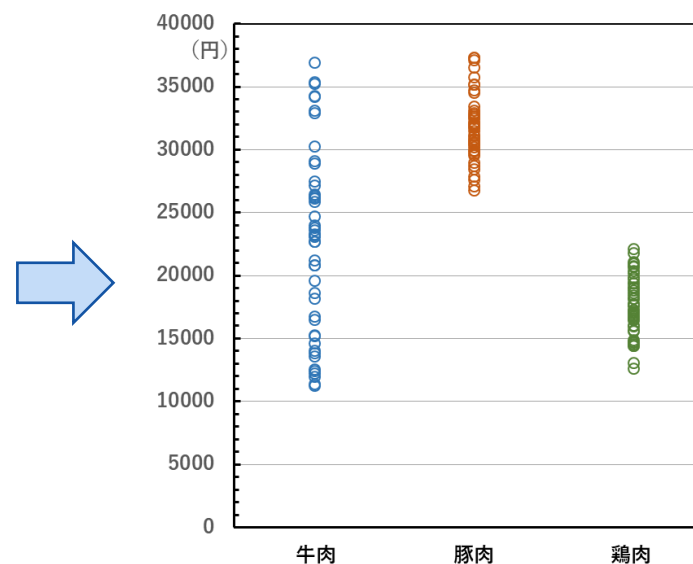
これは**データの分布の様子をみるためのグラフの一例**で、参考として掲載しました。

通常は、データの分布をみる場合、**箱ひげ図**を使うことが多いと考えられます（この資料でも6ページでは箱ひげ図を使用）。

◎ 以下、EXCELでの作図方法を説明します。

1 まず、**《第1回》の図1**を作図します。作図方法は**《第1回》【解説編】の2～4ページ**を参照してください。

地域コード	都道府県	市	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
			X 1	牛肉	X 2	豚肉	X 3	鶏肉
R01100	北海道	札幌市	1	12463	2	32698	3	16903
R02201	青森県	青森市	1	15301	2	33418	3	16536
R03201	岩手県	盛岡市	1	11409	2	32621	3	14742
R04100	宮城県	仙台市	1	13876	2	32951	3	16521
R05201	秋田県	秋田市	1	14047	2	35183	3	16664
R06201	山形県	山形市	1	26151	2	34770	3	16655
R07201	福島県	福島市	1	12587	2	37301	3	14432
R41201	佐賀県	佐賀市	1	26217	2	29569	3	19397
R42201	長崎県	長崎市	1	23218	2	30844	3	18188
R43100	熊本県	熊本市	1	26483	2	30612	3	20691
R44201	大分県	大分市	1	30256	2	31832	3	21831
R45201	宮崎県	宮崎市	1	24024	2	30620	3	20805
R46201	鹿児島県	鹿児島市	1	23222	2	32165	3	20958
R47201	沖縄県	那覇市	1	14644	2	28958	3	14550



このグラフは、3つの系列で構成される散布図となっています。

**牛肉**：(A)と(B)との散布図、横軸上の位置 = 1

**豚肉**：(C)と(D)との散布図、横軸上の位置 = 2

**鶏肉**：(E)と(F)との散布図、横軸上の位置 = 3

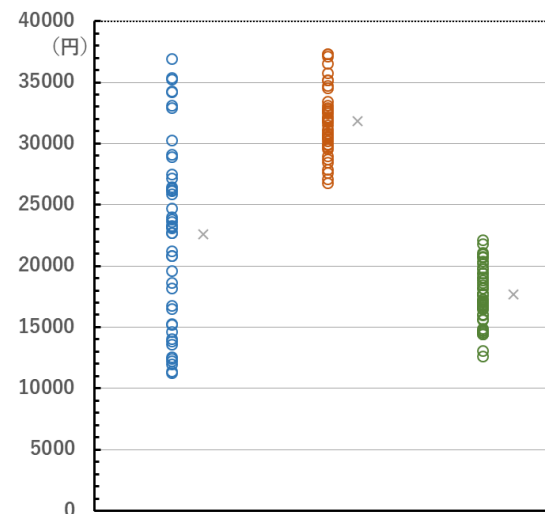
- 2 右表のように、**平均値と標準偏差の表に横軸上の位置 (X 4) ⑥**を追加します。  
 (⑥には 1.0、2.0、3.0 の少し右になるような数値を入れます。)

	牛肉	豚肉	鶏肉
X 4	1.2	2.2	3.2
平均値	22,599	31,775	17,626
標準偏差	7,262	2,594	2,252

- 3 この⑥と⑧との散布図を、**第4の系列**としてグラフに追加します。  
 まずグラフの上にカーソルを置き、右クリックして **データの選択** を  
 選択します。右図の**データソースの選択** の画面が表示されるので、  
**追加** をクリックします。

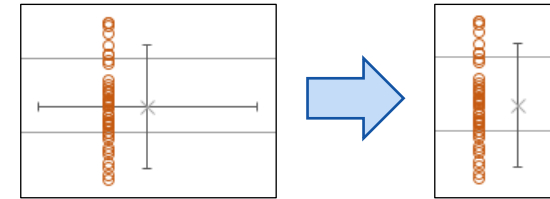
すると **左図**が表示されるので、  
**系列名** を「平均値」、  
**系列Xの値** を⑥ (3個のセル)、  
**系列Yの値** を⑧ (3個のセル)、  
 と指定して**OK**をクリックします。

- 4 右図のようなグラフが出来上がります。  
 データが縦にプロットされた右側に、各品目の平均値が  
 マークされています (×のマーク)。




5 ×のマークを選択した状態で、右上の「+」から**誤差範囲**をチェックすると、**右図**のように、十字の形の誤差範囲の線が表示されます。

ここで、誤差範囲の**横の線のみを選択して削除し、縦の線だけ残します。**




6 **誤差範囲の縦の線**を選択して右クリックし、表示される **誤差範囲の書式設定** で、以下のように指定します。


- ▶  (**縦軸誤差範囲**) を表示し、
  - ・ **方向 = 両方向**
  - ・ **終点のスタイル = キャップあり**
  - ・ **誤差範囲 = ユーザー設定** ▶ **値の指定**で、**正の誤差の値・負の誤差の値**ともに、① (**標準偏差：3個のセル**) **を指定**

7 各グラフ要素の書式を適宜調整します。

① ×のマーク (第4のデータ系列)

- ▶  (**塗りつぶしと線**) > **マーカー** を表示し、
  - ・ **マーカーのオプション = 組み込み**：種類 = ×、サイズは適宜
  - ・ **枠線 = 線 (単色)**：色を品目ごとに変わると分かりやすい。幅は適宜

② 誤差範囲

- ▶  (**線**) を表示し、
  - ・ **線 (単色)** で、幅を少し太くすると見やすい。

### 3 データを地図に表示する ▶ jSTAT MAPでの作図方法

◎ EXCELのマップグラフ機能でもデータを地図に表示することができますが、この資料では、政府統計の総合窓口（e-Stat）で提供されているサービス「jSTAT MAP」により地図を作図する方法を説明します。

#### 【jSTAT MAPを用いた作図方法】

1 jSTAT MAPを使用する前の準備をします。

① e-Statのアカウントを登録します。

jSTAT MAPで手持ちのデータを地図に表示するには、**アカウント登録**が必要です（無料）。  
アカウント未登録の場合は、**e-Stat**のトップページ（<https://www.e-stat.go.jp/>）の右上にある **新規登録** をクリックし（右図）、表示された画面の指示にしたがい、アカウントを登録しておきます。



② 入力用のデータセットを用意します。

分析用データセットの左端に**1列追加**し、タイトル行に「**コード**」と入力し、北海道から沖縄県まで、**1から47の連番**を入れておきます（右図）。

（地域コードのRの右隣りの2桁と同じ数字）

これを、**CSVファイル形式**で保存しておきます。

（ここでは **SSDSE-C\_生鮮肉.csv** という名前を付けて保存しました。）

コード	地域コード	都道府県	市	牛肉	豚肉	鶏肉
1	R01100	北海道	札幌市	12463	32698	16903
2	R02201	青森県	青森市	15301	33418	16536
3	R03201	岩手県	盛岡市	11409	32621	14742
4	R04100	宮城県	仙台市	13876	32951	16521
5	R05201	秋田県	秋田市	14047	35183	16664

## 2 jSTAT MAPのページを表示します。

- ① e-Statのトップページ (<https://www.e-stat.go.jp/>)の右上から、ログインします。  
(1①のアカウントを使用)

- ② 地図 をクリックして 統計地理情報システム のページを表示します。

- ③ >地図で見る統計 (jSTAT MAP) をクリックし、jSTAT MAPのページを表示します。

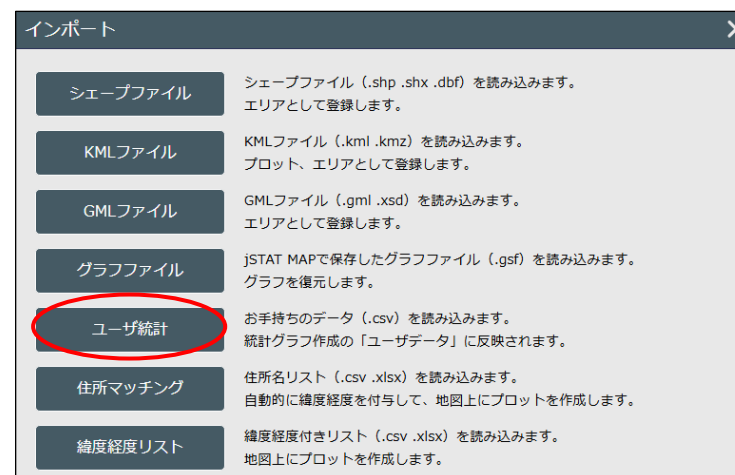
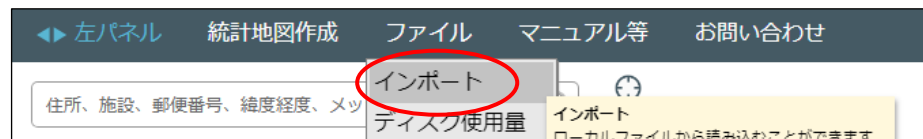
The screenshot shows the e-Stat homepage. At the top right, there are links for 'お問い合わせ | ヘルプ | English' and a 'ログイン' button circled in red with a red arrow pointing to it from the text 'ログイン' above. Below the navigation bar, there are several sections. The '統計データを活用する' section contains buttons for 'グラフ', '時系列表', '地図', and '地域'. The '地図' button is circled in red. To the right of this section, there are several utility buttons like '利用ガイド', 'マイクロデータの利用', '開発者向け', and '統計関連情報'.



The screenshot shows the jSTAT MAP page. At the top, there is a header with 'e-Stat 統計で見る日本' and '政府統計の総合窓口'. Below this, there is a navigation bar with '統計データを探す', '統計データの活用', '統計データの高度利用', '統計関連情報', and 'リンク集'. The main content area is titled '統計地理情報システム' and contains a list of features. At the bottom, there is a link '>地図で見る統計 (jSTAT MAP)' circled in red. Below this link, there is a brief description of the system.

### 3 jSTAT MAPへデータをインポートします。

- ① jSTAT MAPの画面上部のメニューから、**ファイル** をクリックし、プルダウンメニューから **インポート** をクリックします。表示された**インポート**の画面で **ユーザ統計** を選択すると、**ユーザ統計インポート**の画面が表示されます（右下図）。



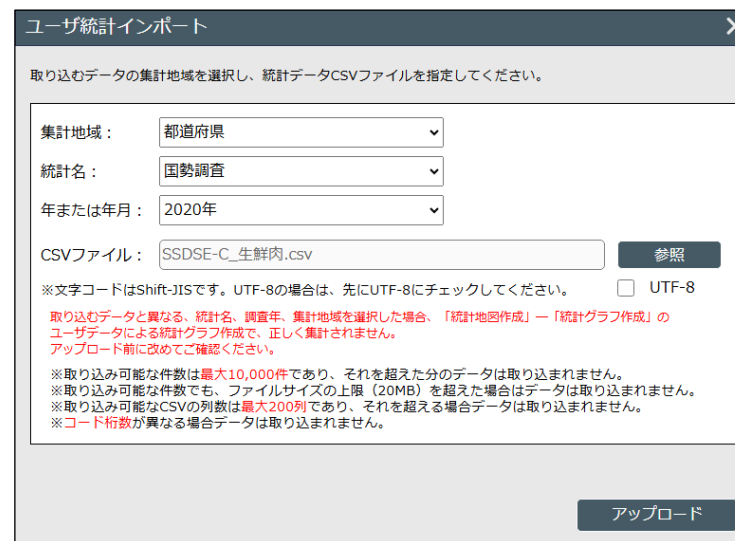
- ② **ユーザ統計インポート**の画面で **集計地域** ▶ **都道府県**、 **統計名** ▶ **国勢調査**、 **年または年月** ▶ **2020年**、とし、**参照** をクリックします。

1 ②で作成した**CSVファイル**を選択し、**開く** をクリックします。

↑(ここでは **SSDSE-C\_生鮮肉.csv**)

**ユーザ統計インポート**画面の**CSVファイル欄**に選択したファイルのファイル名が表示されていることを確認後、**アップロード** をクリックします。

- ◎ アップロードが成功すると、**47/47件登録しました。**と表示されます。  
(うまくアップロードできない場合は、**CSVファイルの内容を確認**してください。)



#### 4 統計グラフ地図を作成します。

① **jSTAT MAP**の画面上部のメニューから、**統計地図作成** をクリックし、プルダウンメニューから **統計グラフ作成** をクリックします。

② **統計グラフ作成・作成するグラフの指標を選択してください** の画面が表示されるので、**ユーザデータ** のタブをクリックし、**種類 ▶ ユーザデータ、グループ ▶ CSVファイル名、** を選択し、  
↑(ここでは **SSDSE-C\_生鮮肉**)

右側の **指標/データ** に表示される **牛肉、豚肉、鶏肉**の3項目に**チェック**を入れ、**指標選択** をクリックします。

③ 同じ画面の下の部分、**選択指標/データ** に**3項目が表示**されるので、表示内容を確認し、問題なければ **次へ** をクリックします。

④ **統計グラフ作成・集計地域を選択してください** の画面が表示されるので、

**集計地域 ▶ 都道府県、集計範囲 ▶ 全国** を確認し、**集計開始** をクリックすると、

1番目の項目である**牛肉の統計グラフ地図**が表示されます。

統計グラフ作成 作成するグラフの指標を選択してください。

統計データ ユーザデータ お気に入り

種類 ユーザデータ

区分

グループ SSDSE-C\_生鮮肉

指標/データ 名称で検索

地域コード

都道府県

市

牛肉

豚肉

鶏肉

指標選択 選択解除



選択指標/データ 統計データ/グループ

牛肉	/0-加工統計データ/SSDSE-C_生鮮肉
豚肉	/0-加工統計データ/SSDSE-C_生鮮肉
鶏肉	/0-加工統計データ/SSDSE-C_生鮮肉

お気に入りに追加 次へ



統計グラフ作成 集計地域を選択してください。

集計地域  都道府県  エリア

集計範囲  画面表示範囲  行政区指定  全国

さらに集計範囲をエリアで絞り込む

選択してください

集計イメージ

全国を範囲とし  
都道府県ごとに集計を行います。


グラフ名 SSDSE-C\_生鮮肉

戻る 集計開始



## 5 統計グラフ地図の詳細設定を行います。

① 地図の右上に表示されている「**Google Map**」をクリックすると、プルダウンメニューから、**使用する地図を選択**することができます。ここでは、**地理院地図（白地図）**を使用しました。

② 左パネル **統計グラフ** に表示される**グラフ名の左端**のをクリックし、**プロパティ**を選択すると、**グラフプロパティ**画面が表示されます。この画面で、色分けの**ランク数**や**色の指定**など、詳細を設定できます。

③ ここでは、

**ランク種類 ▶ 件数均等、 ランク数 ▶ 4ランク、 透過率 ▶ 5%、 ランク色・ランク値設定 ▶ グラデーション、**に設定し、更に**ランク1とランク4の色を個別指定**（色パレットをクリックすると指定できる）し、**更新する** をクリックして、設定変更を反映しました。

◎ **他のデータ（豚肉、鶏肉）の統計グラフ地図**を作成する場合は、**グラフプロパティ**画面の **指標** の右側にある ▼ をクリックしてプルダウンメニューを表示し、作成したいデータを選択後、**更新する** をクリックすることで、作成できます。

◎ **jSTAT MAP**を終了後、同じアカウントで再度ログインする場合は、「**3 jSTAT MAPへデータをインポートします**」の手順は不要になります。



ランク	色	値	〜	ランク	色	値
ランク1	#aff5fb	11293	〜	ランク6	#FFFFFF	〜
ランク2	#bdd7ee	15232	〜	ランク7	#FFFFFF	〜
ランク3	#8cb9e1	23119	〜	ランク8	#FFFFFF	〜
ランク4	#5b9bd5	26484	〜	ランク9	#FFFFFF	〜
ランク5	#FFFFFF		〜	ランク10	#FFFFFF	〜

## 4 各品目の間の相関をみる ▶ EXCELでの作図方法

◎ 2つの項目の相関係数の計算方法は以下のとおりです。

(例：牛肉と豚肉の相関係数)

=CORREL (右図①の破線で囲んだ範囲, 右図②の破線で囲んだ範囲)

◎ 2つの項目の散布図の作成方法は次のとおりです。

EXCELでは、データが縦に並ぶ2列の項目を選択して散布図を作成すると、左の列の項目が横軸(X軸)、右の列の項目が縦軸(Y軸)となります。

1 まず、右図の①と②(赤太枠)を選択した状態で、

挿入 > グラフ → グラフの挿入 を表示

すべてのグラフ > 散布図 を選択

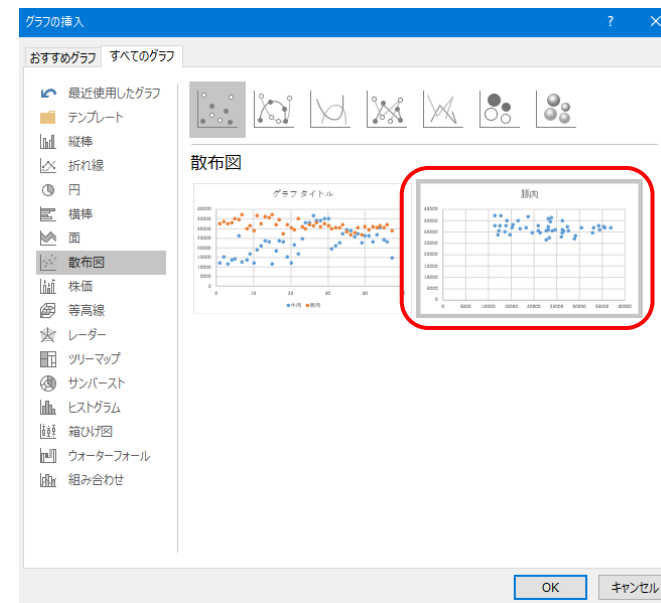
右下図のように選択し、OKをクリックすると、

横軸に牛肉の支出金額、縦軸に豚肉の支出金額がプロットされた散布図が作成できます。

2 便宜的に、牛肉のデータ①を一番右にもコピーして④としておくと、同じ方法で、3つの散布図を作成することができます。

- ・ ①と②による散布図 …… 図3-1 牛肉と豚肉の散布図
- ・ ②と③による散布図 …… 図3-2 豚肉と鶏肉の散布図
- ・ ③と④による散布図 …… 図3-3 鶏肉と牛肉の散布図

地域コード	都道府県	市	牛肉	豚肉	鶏肉	牛肉
R01100	北海道	札幌市	12463	32698	16903	12463
R02201	青森県	青森市	15301	33418	16536	15301
R03201	岩手県	盛岡市	11409	32621	14742	11409
R04100	宮城県	仙台市	13876	32951	16521	13876
R05201	秋田県	秋田市	14047	35183	16664	14047
R06201	山形県	山形市	26151	34770	16655	26151
R07201	福島県	福島市	12587	37301	14432	12587
R41201	佐賀県	佐賀市	26217	29569	19397	26217
R42201	長崎県	長崎市	23218	30844	18188	23218
R43100	熊本県	熊本市	26483	30612	20691	26483
R44201	大分県	大分市	30256	31832	21831	30256
R45201	宮崎県	宮崎市	24024	30620	20805	24024
R46201	鹿児島県	鹿児島市	23222	32163	20958	23222
R47201	沖縄県	那覇市	14644	28958	14550	14644



3 それぞれの散布図について、各グラフ要素の書式を適宜調整します。

各要素にカーソルを置き、右クリックして **〇〇の書式設定** を選択すると、それぞれの書式設定画面が表示されます。  
この資料では、以下のように設定しています。

① **データ系列** ▶  **(塗りつぶしと線)** > **マーカー** を表示し、

- ・ **マーカーのオプション** = **組み込み** : 種類 = ○、サイズは適宜
- ・ **塗りつぶし** = **塗りつぶしなし**
- ・ **枠線** = **線 (単色)** : 色は黒、幅は適宜

② **横軸、縦軸**

▶  **(軸のオプション)** を表示し、

- ・ **軸のオプション** : 品目ごとに、次のように設定

**牛肉** : 最小値 = 0、最大値 = 40000、目盛 = 10000、補助目盛 = 2000

**豚肉** : 最小値 = 20000、最大値 = 40000、目盛 = 5000、補助目盛 = 1000

**鶏肉** : 最小値 = 10000、最大値 = 25000、目盛 = 5000、補助目盛 = 1000

- ・ **目盛** : 目盛の種類 = なし、補助目盛の種類 = なし

▶  **(塗りつぶしと線)** を表示し、

- ・ **線** = **線 (単色)** : 色を品目ごとに変えて指定、幅は適宜

③ **タイトル・ラベル**

- ・ この資料では、グラフの表題は別途作成したため、EXCELのグラフタイトルは削除しています。
- ・ この資料では、横軸ラベルと縦軸ラベルを追加し、品目名と単位 (円) を表示しています。

④ **相関係数の表示**

- ・ この資料では、相関係数の値をテキストボックスで張り付けています。

## 5 東日本と西日本に分けて分析する ▶ EXCELでの作図方法

◎ 分析用データセットのうち、上半分の23行が東日本、下半分の24行が西日本に該当しています。

- ・東日本： 北海道・東北・関東・中部（23都道県）
- ・西日本： 近畿・中国・四国・九州・沖縄（24府県）

◎ 東西別の平均値・標準偏差は、EXCEL関数（AVERAGE、STDEV.P）の入力範囲を、データの上半分（東日本）又は下半分（西日本）に指定することで、計算することができます。

◎ 東西別の箱ひげ図は、以下の手順で作成できます。

1 分析用データセットを、右下の表の形に編集し、赤太枠の範囲を選択した状態で、

挿入 > グラフ → グラフの挿入 を表示

すべてのグラフ > 箱ひげ図 を選択し、OKをクリックすると、箱ひげ図が表示されます。

2 箱ひげ図のうちの一つにカーソルを置き、右クリックしてデータ系列の書式設定を選択し、

▶ （系列のオプション）を表示し、

- ・要素の間隔：この資料では20%  
(数値が小さいほど箱の横幅が拡大し左右の空白が狭まる)

▶ （塗りつぶしと線）を表示し、

- ・塗りつぶし と 枠線 の色を適宜指定

地域コード	都道府県	市	牛肉	豚肉	鶏肉
R01100	北海道	札幌市	12463	32698	16903
R02201	青森県	青森市	15301	33418	16536
R03201	岩手県	盛岡市	11409	32621	14742
R04100	宮城県	仙台市	13876	32951	16521
R21201	岐阜県	岐阜市	21259	29680	15677
R22100	静岡県	静岡市	16511	35210	17688
R23100	愛知県	名古屋市	24711	31137	17271
R24201	三重県	津市	32927	29927	17293
R25201	滋賀県	大津市	33097	32006	20211
R26100	京都府	京都市	36937	31888	21128
R44201	大分県	大分市	30256	31832	21831
R45201	宮崎県	宮崎市	24024	30620	20805
R46201	鹿児島県	鹿児島市	23222	32165	20958
R47201	沖縄県	那覇市	14644	28958	14550

地域コード	都道府県	市	牛肉(東)	牛肉(西)	豚肉(東)	豚肉(西)	鶏肉(東)	鶏肉(西)
R01100	北海道	札幌市	12463		32698		16903	
R02201	青森県	青森市	15301		33418		16536	
R03201	岩手県	盛岡市	11409		32621		14742	
R04100	宮城県	仙台市	13876		32951		16521	
R21201	岐阜県	岐阜市	21259		29680		15677	
R22100	静岡県	静岡市	16511		35210		17688	
R23100	愛知県	名古屋市	24711		31137		17271	
R24201	三重県	津市		32927		29927		17293
R25201	滋賀県	大津市		33097		32006		20211
R26100	京都府	京都市		36937		31888		21128
R44201	大分県	大分市		30256		31832		21831
R45201	宮崎県	宮崎市		24024		30620		20805
R46201	鹿児島県	鹿児島市		23222		32165		20958
R47201	沖縄県	那覇市		14644		28958		14550

◎ 東西別の相関係数の計算は、以下のとおりです。

(例：牛肉と豚肉の相関係数)

東日本： =CORREL (右図アの範囲, 右図イの範囲)

西日本： =CORREL (右図エの範囲, 右図オの範囲)

◎ 散布図を東西別に塗分ける方法は、以下のとおりです。

(例：牛肉と豚肉の散布図)

1 まず、牛肉と豚肉の東日本のデータ (右図破線 (ア+イ)) を選択した状態で、

挿入 > グラフ → グラフの挿入 を表示

すべてのグラフ > 散布図 を選択

右下図のように選択し、OKをクリックすると、

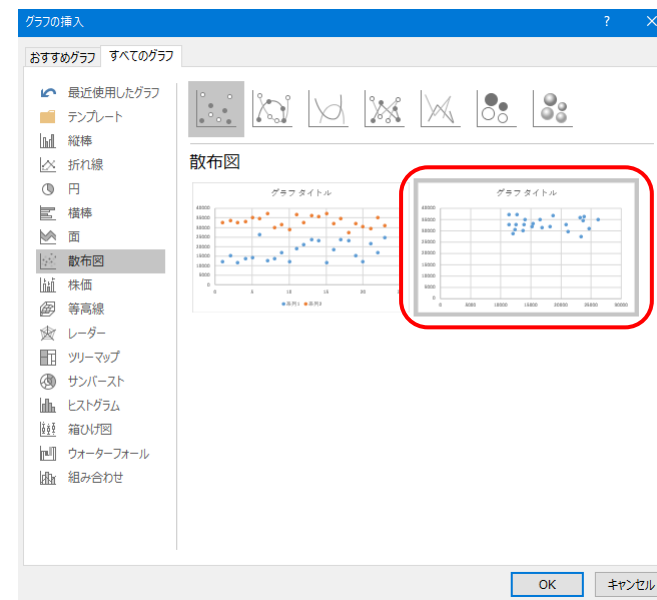
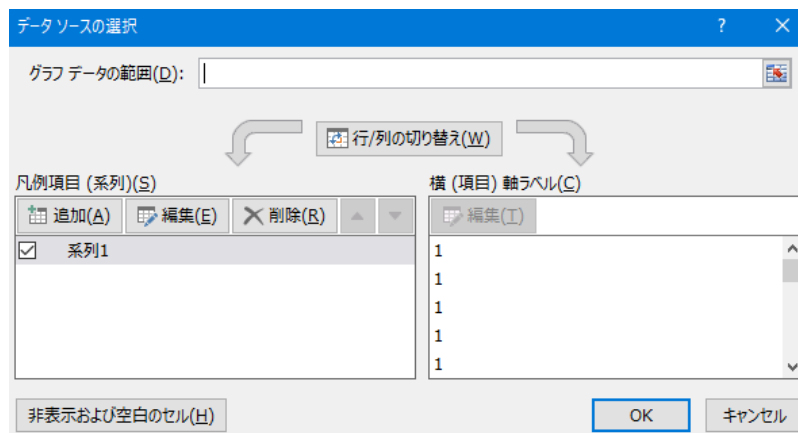
東日本のデータの散布図 (横軸 (X軸) が牛肉、縦軸 (Y軸) が豚肉) が作成されます。

2 散布図の上にカーソルを置き、右クリックして、データの選択 を選択します。

下図のデータソースの選択 で、系列1 を選択して 編集 をクリックし、

系列名 に「東日本」と入力しておきます。


地域コード	都道府県	市	牛肉	豚肉	鶏肉
R01100	北海道	札幌市	12463	32608	16903
R02201	青森県	青森市	1530	33418	16530
R03201	岩手県	盛岡市	11409	32621	14742
R04100	宮城県	仙台市	33876	32951	16521
R21201	岐阜県	岐阜市	21259	29680	15677
R22100	静岡県	静岡市	1651	35210	17689
R23100	愛知県	名古屋市	24711	31137	17271
R24201	三重県	津市	32927	29927	17293
R25201	滋賀県	大津市	33097	32006	20211
R26100	京都府	京都市	36937	31888	21128
R44201	大分県	大分市	30256	31832	21831
R45201	宮崎県	宮崎市	24024	30620	20805
R46201	鹿児島県	鹿児島市	23222	32165	20958
R47201	沖縄県	那覇市	14644	28958	14650




3 次に、2つ目の系列として、西日本のデータを追加します。

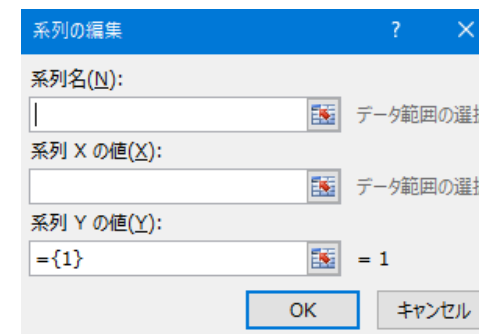
2と同様に **データソースの選択** を表示し **追加** をクリックすると **右図**が表示されるので、

**系列名** を「西日本」、

**系列Xの値** を **Ⓔ** (西日本の牛肉) のデータ (  をクリックしてデータ範囲を指定) 、

**系列Yの値** を **Ⓕ** (西日本の豚肉) のデータ (  をクリックしてデータ範囲を指定) 、

として **OK** をクリックします。



4 各グラフ要素の書式を適宜調整します。

① (東日本、西日本それぞれについて) **データ系列** ▶  (**塗りつぶしと線**) > **マーカー** を表示し、

- ・ **マーカーのオプション=組み込み** : 種類とサイズを適宜指定
- ・ **塗りつぶし・枠線** : 色や幅を適宜指定

② **横軸、縦軸** ▶ **8ページの散布図の説明を参照**

③ **タイトル・ラベル** ▶ **8ページの散布図の説明を参照**

④ **凡例**

グラフの上でクリックして、右上に表示される「**+**」から **凡例** をチェックし、  
表示された凡例について、**位置の調整**、**書式設定**を適宜行います。

※ この資料では、系列名の中に相関係数の値「 $r = 0.xxx$ 」も併せて入力し、表示できるようにしています。



**SSDSE（教育用標準データセット：Standardized Statistical Data Set for Education）は、**  
データ分析のための汎用素材として、独立行政法人統計センターが無償で提供しています。

<https://www.nstac.go.jp/use/literacy/SSDSE/>

- ・ 主要な統計を地域別に一覧できる表形式のデータセットです。
- ・ 6種類のSSDSEを公開しています。（令和6年12月現在）
- ・ データサイエンス演習、統計教育などにご活用ください。

SSDSE-市区町村（SSDSE-A）	全国の全市区町村の、人口、経済、教育、労働、医療、福祉など、様々な分野の統計データを収録
SSDSE-県別推移（SSDSE-B）	人口、経済、教育、労働、医療、福祉など、様々な分野の統計データを、12年分の時系列で収録
SSDSE-家計消費（SSDSE-C）	1世帯当たりの食料の年間支出金額（消費額）を、魚介、肉、野菜、果物、菓子、飲料などに分類し、それぞれ詳細な品目別にデータを収録
SSDSE-社会生活（SSDSE-D）	男女別に、スポーツ・趣味・娯楽・ボランティアなどの詳細な活動データや、1日の睡眠・食事・学業・家事・仕事・趣味・娯楽などの時間配分データを収録
SSDSE-基本素材（SSDSE-E）	人口、経済、教育、文化、医療、福祉など、様々な分野の統計データを収録し、初学者にも扱いやすいデータセットです
SSDSE-気候値（SSDSE-F）	気温、気圧、風速、日照、降水量、雪など、様々な気象データについて、月・年別の平年値を収録

## SSDSE を使ってみよう — EXCEL を使った SSDSE データの使用例 —

### 第2回 生鮮肉の支出金額（その2）【解説編】

公開：令和7年2月28日

作成：独立行政法人 統計センター <https://www.nstac.go.jp/>

お問い合わせ先： SSDSE 担当

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1

統計センター 統計技術・提供部 技術研究開発課

ssdse\_atmark\_nstac.go.jp （「\_atmark\_」を「@」に置き換えてください）

